

千葉市国際交流協会は1994年7月1日に設立され、2012年に公益財団法人として新たにスタートしました。当協会は、真の国際都市としての千葉市の発展をめざし、地域の国際交流活動及び国際協力活動を推進するとともに、様々な文化や価値観を持った人々が理解し合いながら暮らすことのできる多文化共生社会の実現を図り、もって国際平和と繁栄に寄与することを目的として様々な事業に取り組んでいます。

外国人市民支援事業

外国人市民が地域社会の一員として生活できるよう、日本語学習支援、外国人生活相談・法律相談、災害時外国人市民支援など様々な支援事業を行っています。

<日本語学習支援>

外国人市民が日常生活においてコミュニケーションをとれるよう、ボランティアとの1対1形式の他、初心者向けにグループレッスンなどの支援を進めています。



<外国人生活相談・法律相談>

言葉や習慣の違いなどから生じる日常生活の相談について、窓口や電話で対応する他、三者間通話にて区役所など公的機関と外国人相談者との通訳支援も行います。（無料）また、弁護士による法律相談も無料で実施しています。



<災害時外国人市民支援>

日本人市民と外国人市民とが協力し合い災害を乗り越えるために、防災訓練への参加や防災教室などの実施により、防災啓発活動を進めています。



～多文化共生社会の実現に向けて～ 協会は多角的に事業に取り組んでいます！

市民活動支援事業

日本語学習支援を中心とするボランティアの登録・コーディネートを実施しながら、ボランティア研修などを通して、ボランティアの育成を図っています。また、ボランティア団体との連携により、市民による多文化共生の推進をめざしています。

<ボランティアコーディネート>

日本語学習支援や通訳・翻訳など、登録ボランティアによる協力により、地域に根差した国際交流・国際協力事業の推進を図ります。



<ボランティア研修>

登録ボランティア育成のため、様々な研修を実施しています。日本語学習支援ボランティアに向けて、入門から養成、実践まで各レベルごとの講座を実施しています。



多文化理解推進事業

外国人市民と日本人市民の交流を図る交流サロンや千葉市の姉妹都市との青少年交流事業、その他に語学サロンなどの実施により多文化理解を図り、また行政、学校、ボランティア、自治会等との連携を図る事業などを実施しています。

<交流サロン>

日本語スピーチ大会や、市内の小中学校にて国際理解教育支援として、外国人による文化紹介を実施するなど、様々な交流事業を実施しています。



<青少年交流事業>

姉妹都市間で次代を担う青少年の派遣・受入を実施し、お互いの都市に滞在しながら、文化・歴史などについて理解を深め、広く市民との交流を図ります。



<語学サロン>

国際交流ボランティア活動の支援及び育成を図るため、外国語の習得や多文化理解を目的として実施しています。



情報収集・提供事業

外国人市民が安心して暮らしていけるよう、生活に関係のある行政サービスや災害情報などを、ホームページ・フェイスブックや生活情報誌などにより多言語で情報提供しています。

事業実施概要

事業名称	千葉県および近隣地域における生活者としての外国人に対する日本語教育・社会参加支援体制整備事業 『ちば多文化協働プロジェクト』			
地域の課題	千葉県では、行政・NPO・国際交流協会などが多文化共生施策や啓発イベントを行っているものの、外国人が地域社会で積極的に発信することを通して社会に十全に参加し自己実現を図ることを後押しすることが十分にできていない。			
事業の目的	「生活者としての外国人」の社会参画を目指した日本語教育の機会拡充と内容充実、および市民の多文化理解促進を同時に行うことによる、包括的な支援体制整備。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	生活者としての外国人に対する生活・社会参加支援日本語教育	名称	外国人の社会参加を支える支援者研修
	目的	地域参加につながる、発信型活動の促進	目的	支援者と学習者の対等な関係づくりをめざした活動の促進
	内容	テーマでつながる日本語クラス(子育て、介護、防災、自治会など、生活に密着したテーマを扱う発信型クラス)。学習者によるスピーチや住民との対話活動の組み込み。	内容	学習支援事業の背景、コミュニケーションスキル、やさしい日本語、対話型日本語活動演習、学習者と協働でコミュニケーションのあり様を考察する演習など。
	対象	地域在住外国人とテーマに関心のある地域住民	対象	市内日本語ボランティア、連携機関の所属者
	時間	1回 3時間× 21回(全63時間)	時間	1回 2～3時間× 23回(全66時間)
	人数	165人(うち外国人70人)	人数	43人
	取組3			
	名称	事業成果普及		
	目的	地域市民に向けた事業成果の周知		
	内容	1) フェイスブックによる取組広報 2) メルマガによる告知や報告 3) リーフレット作成、ちば市国際ふれあいフェスティバルでの広報		
	対象	取組1, 2の関係者・参加者、一般市民		
	人数	メルマガ読者 154人、リーフレット配布数 1200		
連携体制	日本語ボランティア、地域振興課、あんしんケアセンター、保健福祉センター、保育所、防災普及公社、日本防災士会、町会など			
成果と課題	取組1は、学習者にとって、何かを教えてもらう日本語クラスではなく、自らの経験や知識や関心に基づいて発信し、日本人住民と交流することを重視する日本語クラスであった。クラスは、事業のコンセプトを共有する支援者研修修了者との協働で実施され、学習者・支援者双方から取組目標が質的に達成されたことを示す評価が挙げた。こうした日本語活動の普及のために、講師の育成や関係機関との恒常的な連携体制が今後の課題である。			
参加者の皆様へ一言	「取組1」の「テーマでつながる日本語クラス」について発表します。「つながる」とは、何と何がつながるのでしょうか。発信型の日本語活動の内容や成果物をご覧ください、ご意見をお聞かせください。 発表者：千葉県国際交流協会 委嘱コーディネーター 萬浪 絵理			